

ろくごうじんじゃ やぶさめ
六郷神社の流鎗馬

都指定文化財（無形民俗）

昭和38年（1963）3月19日指定

伝承地：六郷神社 東六郷3-10-18

交通アクセス：京浜急行本線ぞうしき雑色駅、六郷土手駅から徒歩10分

実施日：1月7日



(平成29年1月7日撮影)

六郷神社の流鎗馬は、一般的にイメージされる馬を駆けながら行うものではなく、まと的の手前まで歩いてから弓を射る「歩射（ぶしや転じて「オビシャ」とも）」と呼ばれる形式の正月行事です。6尺（約1.8メートル）四方の垂れ幕の中心に、内・上・外・下を見つめる4対の鬼の目玉「八方白眼」が貼られており、ここに矢を放つことで、その年のえほう患方をことほ寿ぐとともにじゃきたいさん邪気退散の願いを込めます。かつては六郷の中でも限られた地区に住む、13歳以下の長男だけがしやしゅ射手を務めましたが、現在では六郷全域から参加者を募り、健康・出世を願う行事として賑わっています。

当社の由緒は、社伝によればてんぎ天喜5年（1057）に源頼義・よりよし義家親子がよしいえ奥州征討（おうしゅうせいとういわゆる前九年の役）に向かう折、この地の老杉に源氏の旗印である白旗を懸けて石清水八幡宮（京都）に戦勝祈願したところ、目的が果たされたのでそのぶんれい分霊をかんじょう勧請したと伝わります。また、ぶんじ文治5年（1189）には源頼朝も奥州藤原氏征討の際、先祖にあやかってこの地で旗上げを行い流鎗馬を奉納したことが、今日の歩射を「ヤブサメ」と呼ぶ所以であると言われます。てんしやう天正19年（1591）に徳川家康によってしゅいんち朱印地が寄進されたため、神社の紋として徳川家のあおい葵紋が掲げられています。

平成10年（1998）からは、つるがおか鶴岡八幡宮（鎌倉）で流鎗馬練習に用いられるものになって造られたというレール式の木馬も導入され、こうぎやう興行性も向上しました。